

「タケノコごはん」を読んで

安芸高田市立可愛小学校

第2学年 高松 りま

「タケノコごはん」を読んで

あき高田市立えの小学校二年 高まつ りま

「タケノコごはん」。このだい名を見て、わたしは、おいしいタケノコごはんのお話だと思っ
ていました。でも、本の中には、せんそうのことが書いてあり
ました。せんそう中、何があつたのかわりたくて、この本を
読んでみることにしました。

日本はむかし、外国とせんそうをしていました。この本を書いた
大しまさんの友だちのさかいくんのお父さんもへい
たいに行き、せんそうでなくなつてしまひました。お父さん
のおそろしきで、さかいくんは、ながずにくつとくちびるを
かんでいたそうです。

さかいくんは、お父さんがなくなつてから、よいものいじめをする
ようになった。さかいくんは、学校で一ばんつよいけれどほ
がらがで、けんかをして、すぐながなおりできる子だつた
そうです。わたしは、さかいくんがかわつてしまつたのは、
きつとお父さん

をなくして、かなしくてたまらなかつたせいだと思えます。

そしてついに、さかいくんたちの学校の先生までかせんそうに行くことになりました。友だちみんなで大すきな先生の家におしげけるど、食べ物もがないじだいに、先生は、家の竹やぶでできた、たきたてのタケノコごはんを、ごちそうしてくれました。それは本当においしかつたそうです。そのタケノコごはんを、みんなはもくもくと食べたのに、さかいくんは一人なきなながら食べていました。しゃくりあげながら、

「先生、せんそうなんが行くなよ。」
と言いました。

その次のページは、先生が何も言わずにだまつてさかいくんを見ているという絵でした。わたしは、先生の顔は、「ごめんな。」という顔に見えました。かなしい顔に見えました。せんそうに行きたくない顔に見えました。さかいくんの言うとおり、わたしもせんそ

うなんかしたくないと思います。なぜかとい
うと、家ぞくがいなくなったり、自分の大切
な人がいなくなったりしたらいやだと思っか
らです。わたしは考えました。どうしてせん
そうきするのだろう。どうしたらせんそうが
なくなるのだろう。学校でもよわいものいじ
めをする人がいます。きつと、かなしい気も
ちの人がよわいものいじめをするのだと思い
ます。かなしい気もちの人やかなしいことが
なくなったら、みんなやさしい気もちになれ
ると思いました。

わたしは、この本を読んで、家ぞくも、友
だちも、大切な人はみんななくしたくないと
思いました。だれもがやさしい気もちですご
せるようになってほしいと思いました。

指導者の言葉

本校では、読書の習慣化を図り、主体的に本を読み、考えを表現する力の育成に取り組んでいます。読書活動の推進としては、朝読書、読んだ本を記録する「読書貯金通帳」の記入、保護者や図書委員会による本の読み語り、読んだ本の面白さを短文で伝える「読書の木」カードの記入等、本に親しみ、読書の楽しさにふれる活動に取り組んでいます。

本作品は、夏休みの読書活動の一環として、読書感想文に取り組んだものです。一学期に、国語科の単元「お話を読んで、かんそうを書こう『スイミー』」において、登場人物の言動に着目して読み、自分の感想と、どこを讀んでそう思ったのかを明確にして感想文を書くという学習を行いました。また、お話を讀んだ時の自分の気持ちに合う言葉を全員で出し合い、語彙を増やすと共に、理由を表す表現についても学習しました。実際に読書感想文を書く際には、「はじめ」「なか」「おわり」の三部構成で書くことも指導しました。

本児童は、読書の習慣が身に付いており、学校の図書室を利用するだけでなく、地域の図書館を利用し、興味のある本を選んで読書しています。広島原爆をテーマにしたドラマを見たことをきっかけに、平和について考えるようになった本児童は、「タケノコごはん」を読み、さらに自分が住む広島や、原爆、平和について思いを巡らせるようになり、戦争や平和をテーマにした他の作品も読むようになりました。本作品は、基本的な構想に沿って書くことができていると、登場人物の言動から、その人物の思いを想像し、登場人物に寄り添いながら、自分の思いや考えを表現することができています。本を讀んだ感想だけにとどまらず、読書を通して得た気づきをもとに、自らの生活を見つめ直し、「誰もが優しい気持ちで過ごせるようになってほしい。」という平和への願いを書きまとめることができた作品となりました。